

銀の道探訪マップ⑦



三次市甲奴町く 世羅町甲山編

三次市甲奴町宇賀の分岐点を尾道に向かつて南下すると、広石を越え頼藤（よりとう）に出、さらに進むと世羅町との境となる柴峠を越える。世羅のなだらかな道を列迫、赤屋と通過し、いよいよ三夜目の宿泊地である甲山の町に着く。甲山は高野山の荘園として中世から栄え、そのシンボル「今高野山」に大伽藍が残されている。御銀蔵はその参道口付近にあったとされる。翌日、甲山を出立した輸送隊は、次の宿場町「宇津戸」を経て、御調町宇根を越える。

- この区間の主な見どころ
- ・中山の一里塚跡 ・宇賀の辻堂
 - ・尾道・笠岡ルートの分岐点
 - ・須佐神社
 - ・八王子神社
 - ・砂田の木得堂と古道
 - ・日本回国塔
 - ・赤屋八幡宮
 - ・今高野山
 - ・世良彦八幡宮
 - ・頼藤の道標
 - ・矢野の岩海
 - ・報恩寺と古道
 - ・良八幡宮
 - ・今市の古道



小童(ひち)の須佐神社

「小童」という地名を読める人は少ない。一説では、子どもがだだをこねて泣き転げることを「ひちぐるう」と言うが、それが地名の元になったという話もある。

小童の「須佐神社」は、ぎおんさんと呼ばれ「素戔鳴尊」を祀る古い神社で、秋祭りには、広島県の重要無形民俗文化財に指定されている芸能「矢野神儀」が行われる。

また、ここには約五〇〇年前に造られた、高さ三・四メートル、幅二・一メートル、重さ一・五トンの大神輿があり、この引き綱を引くと厄払いになり願い事が叶うとされ、地元では「おごっさん」と称して親しまれている。



須佐神社

毘沙門堂の石造層塔

世羅町青近の毘沙門堂には二基の石造層塔が残っている。

これら石塔は形式から見て南北朝、室町初期の頃のものと考えられ、五重塔は高さが二・二三メートル、三重塔は二・〇六メートルあり、いずれも花崗岩でできている。

芸藩通史には「曾我兄弟の墓」と記され、広島藩主の浅野公がここを通過する際、わざわざ籠を降りて、この墓に向かつて遙拝（ようはい）したという伝承も残っている。



毘沙門堂の石造層塔

今高野山

備後国大田荘は、平安時代末の一六六年、後白河院領として立荘された。一一八六年には紀州高野山に寄進され、その政所として「古城山」の北麓一帯に、「龍華寺」をはじめとする七堂十二院が整備されて、「今高野山（新しい高野山という意）」と呼ばれるようになった。

今高野山参道口の石見路沿いに門前町が発達し、町には中継地として市駅が置かれた。

一六四四年には藩営の「御茶屋（本陣）」を設営、つづいて一六八四年には「御銀蔵」が設置され、運上銀輸送路の宿駅としても重要だった。



今高野山絵図

報恩寺の子育て観音

赤屋の「報恩寺」は、一三〇一年の高野山古文書にその名が既に見え、古くから重要な寺院であったと思われる。寺宝の「十一面観音立像」と「聖観音立像」は、共に国の重要文化財となっている。

「安産・子育て・母乳の足りない女性に乳を授ける」との信仰を集め、別名「子育て観音」とも呼ばれている。

子どもの無事成長を願う人が、今も多く訪ねていると思われ、境内のお堂にはその関連のお供え物が絶えることがない。



聖面観音 十一面観音

矢野の岩海(がんかい)

岩海とは、大きな岩が累々と谷を埋めるように転がっている地形を言い、俗に真砂(まさ)と呼ばれる風化花崗岩地帯で見られる。霜による浸食で周囲の山から岩が崩れ、さらに割れ目や節理に沿って化学的な風化をおこし、砂や粘土化した部分が流失して、次第に丸みをおびながら谷に集まり形成される。

矢野の岩海は、あやめ寺として有名な「安福寺」から奥に入った所であり、その規模の大きさから、国の天然記念物に指定されている。



矢野の岩海



今高野山総門前

主な連絡先

三次市甲奴支所	0847-67-2121
世羅町役場	0847-22-1111
世羅町観光協会	0847-22-4400
大田庄歴史館	0847-22-4646
甲山いきいき村	0847-25-0090

銀の道関連ホームページ

みち紀行 温泉津から尾道笠岡へ 世羅台地
<http://www.chugoku-np.co.jp/tokusyuu/mitikikou/m020728.html>



①中山一里塚跡
吉舎と甲奴の境界となる峠の頂付近に一里塚の跡が残っていたが、現在、塚は藪に覆われ見えにくくなっている。

②宇賀の辻堂
地元では、郷地蔵(ごうじぞう)さんと呼ばれている。銀の道はこの先で「笠岡ルート」と「尾道ルート」に別れる。

③須佐神社
1517年の創建で県重要文化財。ここの大神輿は台車付き高さ3.4m幅2.1m重さ1.5tで、「おごっさん」と呼ばれている。

④頼藤の道標
広石から越えようと頼藤に出る。街道の交差点に三角柱の道標が残されている。三角柱の形をしたものは非常に珍しい。

⑤八王子神社の常夜灯
この常夜灯には天照皇大神、巖島大明神などの刻字が見え、塔身そのものが神体を兼ねている。

⑥砂田木徳堂と古道
砂田の木徳堂に古道がそのまま残っている。この辻堂の梁などには、参拝者が記した文字が残っており興味深い。

⑦毘沙門堂の石造層塔
三層の層塔二基は、もとは五層か七層であったと思われる。南北朝～室町時代の物で、曾我兄弟の墓と言われている。

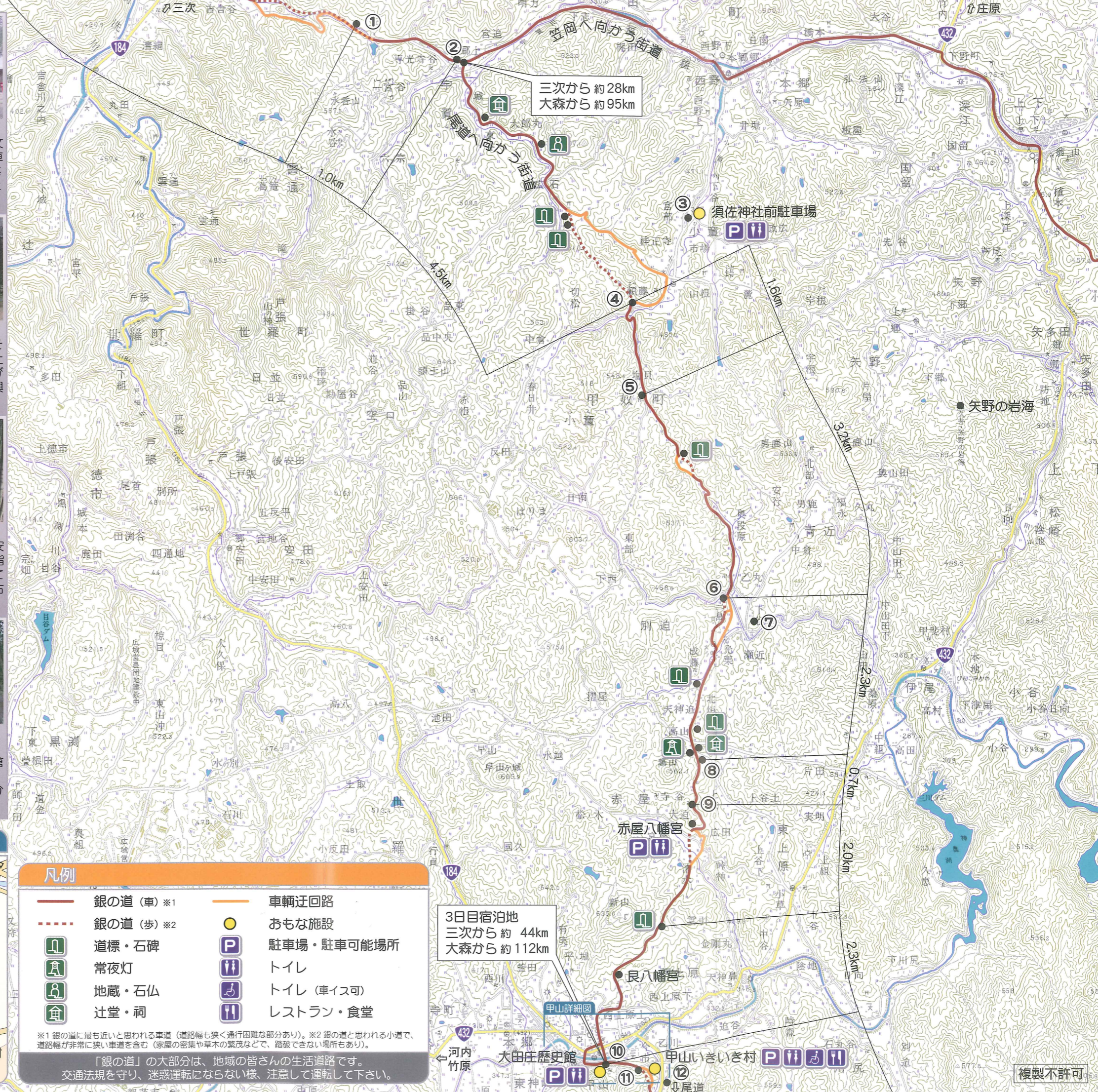
⑧もみの木の日本回国塔
回国塔は巡礼者が諸国をめぐる際、奉仕作業として建てたもの。「石みはら」の物で、曾我兄弟の墓と言われている。

⑨報恩寺の古道
赤屋「報恩寺」には平安初期と思われる、国重文指定の観音像2体が残されている。その参道口付近に古道が残っている。

⑩今高野山総門(仁王門)
「今高野山」の総門として室町時代に建立された。屋根や仁王像の囲い等は後世の補修だが、建立当初の姿を今もとどめている。

⑪今市の古道
江戸時代から変わらない古道が竹林の中に続く。傍根や仁王像の囲い等は後世の補修だが、建立当初の姿を今もとどめている。

⑫世良彦八幡宮
世羅郡の総社と言われ、銀の道に面している。鎌倉時代の文書に「世良彦社」という記述があり、古くから鎮座していた。



二の地図は、国土院院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平18 中復 第150号)